

倶楽部会
水演
21世紀講

デイスポーザーで

賛否の議論が沸騰

NPO法人・21世紀水倶楽部(理事)長 大迫健一 氏。報告した。歌登町は積雪寒

冷地で、ゴミ置き場が雪で埋まってしまふなど、ゴミ処理が大変。そこで生ゴミをデイスポーザーで粉砕して下水道に流せば処理が楽になると、モデル住宅を選んで実験を行った。その結果は下水道の詰まりはなく、下水処理もばつ気時間を少し長くすれば対応できるというものであった。



デイスポーザーで議論が沸騰した講演会

所は快適になり、お年寄りもマンションの階段を重たいゴミを持って運ばなくて済む。ゴミの収集回数を減らすことができ、燃えるゴミに生ゴミが入らないので、焼却効率がよくなる。汚水処理施設から出る余剰汚泥はコンポストにして緑農地に還元できる。2003年度には新築マンションの26%にデイスポーザー排水処理システムがついて販売された。

下水処理施設に及ばず影響についても説明したが、デイスポーザー万能論になりがちであった。

また一方、「下水汚泥に生ゴミが多くなると、汚泥の消化がよくなり、メタンガスのエネルギー効率が高くなる。下水道はただ汚水を流すだけでなく、社会生活に貢献するため、可能性を検討すべきである」などの意見も出て、けんけんごうごう。

デイスポーザーについてはかねてから賛否両論があり、議論すれば議論になりがち。予想外の意見の盛り上がりにも主催側は講演会開催の意義があったと満足している様子だ。

上下水道施設クリート防食

(野中資博、一字野裕一、藤澤権) コンクリート上

最善の材料について考え、その凝縮したもの。一トと防食用樹脂

識、微生物作用、学作用まで非常水道の劣化現象してわかりやす

らに、各種の材採用されている

ト防食、その基や機能・性能、管理技術の要点説明している。

著者はいずれ取り組んできで、その視点からすべてに役立つに執筆したとクリート防食は施設である下水

って重要なテーマに待望の二

う。

森北出版発行
2008ページ、10円。

問合せは、〒071 東京都士見1-4-11 版(株)電話03

次にデイスポーザーの国内製造会社の担当者が「デイスポーザーを用いた資源循環型の提案」と題して講演した。「生ゴミをデイスポーザーで処理すれば、台

この点は主催者側も心配して、開会の時に司会者がデイスポーザー使用の前提として、分流水下水道で下水処理施設に余裕のあるところに限られるであろうと前置きしていたが、デイスポーザー肯定の雰囲気となった。

これに質疑応答で反発が出た。会場には最近のデイスポーザーの状況が聞けるとあって、地方公共団体等からも多く出席して意見を述べた。

「上下水道の半世紀」で講演

下水道機構 技術サロ

藤木氏は、戦後間もない時期に製作された、上下水道整備、し尿処理、都市水路の記録映画を上映、現在では高普及となっている上下水道がまだ整備されていない時代の苦労、その後の建設過程を紹介、社会資本の整備が国民生活をどのように豊かにしたか明らかにした。

そして、将来に向けて継承・発展させ、さらに過去の経験を開発途上国の衛生対策、世界の水問題解決に活かすべきだと語った。

技術サロンの今後の日程は次の通り。

1月12日(木)「平成18年度下水道事業の概要」(講師)江藤隆・国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課長

2月9日(木)「耐震対策指針について」(渡邊聡・日本下水道協会参事兼技術第二課長)

講演する藤木流域管理官

藤木氏は、戦後間もない時期に製作された、上下水道整備、し尿処理、都市水路の記録映画を上映、現在では高普及となっている上下水道がまだ整備されていない時代の苦労、その後の建設過程を紹介、社会資本の整備が国民生活をどのように豊かにしたか明らかにした。

そして、将来に向けて継承・発展させ、さらに過去の経験を開発途上国の衛生対策、世界の水問題解決に活かすべきだと語った。

技術サロンの今後の日程は次の通り。

1月12日(木)「平成18年度下水道事業の概要」(講師)江藤隆・国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課長

2月9日(木)「耐震対策指針について」(渡邊聡・日本下水道協会参事兼技術第二課長)

「わが国の大都市の下水道は合流式が多く、雨天時には汚濁物質が河川などの公共用水域に流出し、水質汚濁の原因になる。油を下水道に流すと詰まるので、流さないよう指導している



講演する藤木流域管理官

藤木氏は、戦後間もない時期に製作された、上下水道整備、し尿処理、都市水路の記録映画を上映、現在では高普及となっている上下水道がまだ整備されていない時代の苦労、その後の建設過程を紹介、社会資本の整備が国民生活をどのように豊かにしたか明らかにした。

そして、将来に向けて継承・発展させ、さらに過去の経験を開発途上国の衛生対策、世界の水問題解決に活かすべきだと語った。

技術サロンの今後の日程は次の通り。

1月12日(木)「平成18年度下水道事業の概要」(講師)江藤隆・国土交通省都市・地域整備局下水道部下水道事業課長

2月9日(木)「耐震対策指針について」(渡邊聡・日本下水道協会参事兼技術第二課長)

つね新商品の開発につながるかもし

自治体首長の提案で行われる全庁的官邸主導で行われるLOHAS推進にもれなく顔を出すほか、他省庁IAS関係行事には頼まれずとも抑報を収集し、自分も発言すること。

数値化した方が分かりやすい

クポイントに出てくる提案は、効果つなげること。50mlの屋根に50mmの2.5m→これをタンクに貯水すれば。浸水被害を防ぐには何千、何万貯水槽が必要とか。4千万人が1をふき取れば、合計40klの油が下水ごみ焼却炉の火力がその分増すと

の洗濯を控えるようにという提案聞いたことが少なく、新鮮な感じが従改善の新たな切り口として、高水ぬすすぎ3回×1万戸で1,620トンとか、数値化できませんか。

効果は、バケツ1杯10lで何k c厚うとか、それが何kwhの冷房電るとか、数値化できませんか。全国で打ち水を組織的に展開できれば、エネルギー事情は大きく変わるようにどなたか試算をお願いします。

HAS化の豪快な提案を

生舗装と浸透ますの普及、管渠の補こよる浸入水防止は、不明水退治にスト減と地下水涵養という二重の効果。そこで、下水道局が涵養量に相ヒげ権を取得し、これで都心部にド発生装置を設け、都心部を五里霧中

を読んで

支持します

神林 章元